

百工比照：工芸標本集

百工比照は、17 世紀に日本各地の工芸品や美術品の見本を集めたものである。その中には、工芸技法を示す見本や工芸図、工芸小物も多く含まれている。江戸時代前期（1603-1867）の約 50 年間に渡り、合計 2,000 点余りが収集された。

コレクションは 11 箱ある。最初の 2 箱は帖仕立の折本が中心で、木や漆の見本が入った引き出しもある。残りの箱には、品物や工芸品の見本が入った引き出しが積み重ねられている。

蒔絵、金工、木工、紙、皮革、布の見本のほか、羽織や家紋の図版もある。第 1 号箱の、蒔絵の初期技術であるの梨子地塗の角型見本、第 6 号箱の前田家の江戸（現在の東京）の邸宅の精巧な釘隠しなどが見どころである。

百工比照は、加賀藩 5 代藩主・前田綱紀（1643-1724）が考案したものである。几帳面な学者で、書物や文献の収集に努め、後に美術工芸品にも興味を持つようになった。

コレクションの約 85～90%は綱紀が収集したもので、残りは後継者によって収集されたものである。綱紀は見本をつくらせたり、前田家の邸宅から集めたりした。また、他藩から購入し、売却を拒否された場合は、複製や挿絵を描かせることもあった。